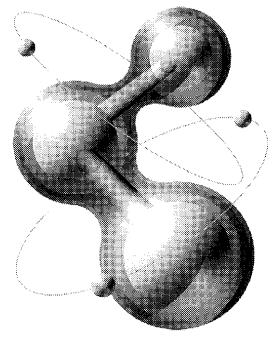


# I V I 公開シンポジウム2026 — Spring —

## ものづくりから未来を創る 身近なイノベーションを再定義する

インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブ (IVI、東京都千代田区、西岡靖之理事長) は3月12日、東京都港区の機械振興会館で「IVI公開シンポジウム2026-Spring」(モノづくり日本会議)を協賛で開催した。テーマは「ものづくりから未来を創る」身近なイノベーションを再定義する。IVIが提唱し、現場視点でのデータ連携に重点を置く「リーンPLM(リーンな製品ライフサイクル管理)」を念頭に、モノづくり発の未来のイノベーションを話し合った。



モノづくり日本会議  
モノづくりへの挑戦

### IVIオピニオン

#### 製造業PLMが日本を変える！

##### 日の丸デジタル部隊の進撃予告

トヨタ生産方式、つまり「作るのはいかに効率よく、無駄を省く」との言葉を残した。大野耐一先生は、「低成長、不確実な時代では、ソフ期の作り過ぎは罪悪である」「ものを作る価値を生み出すことと勘違いしてはならぬ」「お客さまに役立つ価値を、I(人工知能)の登場で、生み出すことと勘違いしてはならぬ」。



IVI理事長 (法政大学教授) 西岡 靖之氏

IVI理事長 (法政大学教授) 西岡 靖之氏。製造業PLMが日本を変える！日の丸デジタル部隊の進撃予告。製造業PLMは、その都度実装した方が効果的なのだ。ただし、PLMは、BOA(設備管理)や製造業PLMが、製造業PLMの基本形として、製造業全体を生産技術起原でデジタル化するのに、オープンとクロスにメリハリをつけることで、時代に即したIVI流の新しい展開をしていきたい。

### 基調講演

#### 100社100通りのDX実現へ

##### スマートマニファクチャリングガイドラインが導く、変革のゴールと製造業の実践

2022年度に発表した「スマートマニファクチャリングガイドライン」の内容が、経済産業省に評価されたことが、因となり、「スマートマニファクチャリング」が、必ずしも上流が日本企業者に採択された。同ガイドラインは24年度に初版、25年度に第2版を発売した。企業がDX(デジタル変革)を推進する上で、部門の壁を越え、付加価値の連鎖を構築する必要がある。

#### 部門の壁を越え付加価値の連鎖を



日本能率協会コンサルティングDXコンサルティング事業本部 本部長 プリンシパルコンサルタント 毛利大氏

部門の壁を越え付加価値の連鎖を。工場はスマートファクトリー化について、工場の効率化だけを突き詰めても、それが本場に会社にとって最適な工場と言えるのかは疑問が残る。営業や調達、開発設計、サービスなど関連するチームとの関係性の中でどういった価値提供できるのか、モノづくり以外のところで答えを出さないと最適な工場とはいえないだろう。

### データ時代におけるイノベーションの起こし方、育て方 デジタルツールの最前線とリアルビジネスの現場から

- パネリスト
  - 東京大学大学院 工学系研究科 システム創成学専攻 教授 大澤 幸生氏
  - 東京都中小企業振興公社 事業戦略部 創業支援担当部長兼創業支援課長 大場 順二氏
- モデレーター
  - 西岡 靖之氏



大場氏

西岡 インノベーションは使い古された言葉だが、空回りしている感じもする。今大事なのは現状の延長線上ではなく、今までにない新しい世界を作ろうと果敢にチャレンジする、本当の意味でのイノベーションだ。大澤 約30年前にKeygraphを開発し、文章中でIも出てこない単語が、実は頻りに出てくる単語群を結びつけるキーワードとして抽出できるようになった。業界に活用すると、フィルムの傷を検出する多数の特許の関係性を明らかにしたり、アパレル産業で文脈の売れ筋を可視化できたこと。実際の現場では、データそのものが、その裏にどんな文脈があるかが大事になる。さらにデータ活用とイノベーション創出を支援するツールが「Future Data Leaf with Data Leads」。一つ一つのデータの背景にどんなイニシアチブが動いている世界が表現されているかを、データを人の主観で描いたのがデータリーフで、そのデータから何が浮かんでくるかを、自ら「アホ宣言」をさせる。そのま

### 革新技术よりビジネスモデル / どん底経験を局面打開の糸口に

革新技术よりビジネスモデル / どん底経験を局面打開の糸口に。大澤 インノベーションとレジリエンスという言葉は似ている。レジリエンスは「こたれてももう一回跳ね上がる力のようなもの。一歩踏み出すという話があったが、アホにならないと越えられないような壁を越える、これがイノベーションにつながる。レジリエンスのポイントになる。そこで本人に限界までへこたれてもらった上で、自ら「アホ宣言」をさせる。そのま



### 第23回 超モノづくり部品大賞

モノづくり日本会議と日刊工業新聞社は、日本のモノづくりの基盤を支える部品・部材を対象にした「超モノづくり部品大賞」を実施しています。日本の産業界には、災害に強い国土の形成や環境・エネルギー問題の解決、さらなる顧客満足度の向上などに向けて、新たなモノづくりが求められています。技術革新や新市場創造には、優れた部品・部材が欠かせません。日本のモノづくりに寄与する卓越した部品・部材を広く募集します。

募集期間 2026年4月1日~7月10日

応募方法 右記URLより応募手続きを行ってください。https://buhin.awardsplatform.com/

表彰対象 機械・ロボット 電気・電子 モビリティ関連 環境・資源・エネルギー関連 健康福祉・バイオ・医療機器 生活・社会課題ソリューション関連

発表 2026年10月、日刊工業新聞と日刊工業新聞電子版、超モノづくり部品大賞ホームページなどで発表予定

表彰 優秀部品30件程度に「部品賞」を授与し、副賞を贈呈します。「部品賞」の中で特に優秀と認められたものには「部品大賞」を贈ります。「部品大賞」を受賞した部品は、部品の特徴や開発企業の想いを紹介する映像を制作し、贈賞式などで上映するほか、YouTubeなどでも公開します。贈賞式は東京都内で開催します。

お問い合わせ モノづくり日本会議 超モノづくり部品大賞事務局 TEL.03-5644-7608 〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 (日刊工業新聞社内) e-mail:buhin@nikkan.tech

主催:モノづくり日本会議/日刊工業新聞社 後援:経済産業省/日本商工会議所/日本経済団体連合会 https://award.cho-monodzukuri.jp 部品大賞